

説明文とPISA型読解力 ①

東田明治

ありの行列

- ①の段落を読んで、**事実**を書いた文と**考え**を書いた文に分けましょう。
- ありについて目に見えるように書いた文（事実）を書き出そう。

- ひっ者が考えたことを書いた文を書き出そう。

- ①の段落の中心となる文は、どれでしょう。

- ①の段落の要点をまとめよう。

情報の取り出し・解釈

ここでは、事実と考えることを区別することを解釈したい。

熟考・評価

中心文をもとに足りない点は補充し、できるだけ短くまとめる。この作業を熟考・評価ととらえたい。この時、友達の見入れども取り入れまとめる。

ありの行列

大滝 哲也 文
神山 博光 絵

① 夏になると、庭のすみなどで、ありの行列をよく見かけます。その行列は、ありの巣から、えさのある所まで、ずつとつづいています。ありは、ものがよく見えません。それなのに、なぜ、ありの行列ができるのでしょうか。

発表し深める段階の指導（発問）

- ① 課題一の発表と確認↓事実を書いた文と考えを書いた文の関係を理解させる。（解釈① 事実と考えの区別）
課題二と結びつけることができる

- ② 「①の段落の四つの文をよく見ると、一つだけ他の三つの文と違う文があります。それは、どれでしょう。」
1 2 4の文は、「行列」について書いていて、3の文は「ありの目」について書いています。
「みなさんはどんなとき行列をしますか。」「遠足などで行列になるとき、列からはなれないように、何で判断しますか。」
（ありの行列と人間の行列と比べイメージを広める）

(by koda)

- ③ 「見方を変えると、もう一つ、一つだけ他の三つの文と違う文があります。それは、どれでしょう。」
4の文だけ文末表現が違う。
問いかける文となっている。

文章全体の話題提示になっていることに気付かせる。（解釈② 問いー説明ー答えの関係）※難しいかも。省略してもよい。

説明文における解釈力とは（東田私案）

- ① 事実と感想・考え・意見の区別ができる
- ② 「問いー例をあげて説明ー答え」の関係がわかる
- ③ 実験・観察などの事例を図表などに整理してまとめることができる
- ④

一 ⑦⑧⑨の段落の関係は(問い―説明―答)になっています。それについて調べましょう。

⑦問い	春先 女王バチの行動
⑧くわしく説明	<p>③ ② ①</p> <p>初夏(最初に産んだ子が働きバチになるころ) 女王バチは? サクラソウは? ハナバチ () () () 働きバチは? () () () の一年</p>
⑨答え	春 冬 秋

二 要点をまとめましょう。

・中心段落

情報の取り出し・
解釈

事例を整理して
まとめる

情報の取り出し・
解釈

「問い―具体的
な説明―答え」
の関係を理解さ
せる

熟考・評価

意味段落の中心
段落の概念の指
導と要点のま
め方の指導

◎トラマルハナバチの一年の確認

- ・確認作業を通してハチの一年をイメージ化
- ・イメージを深めるための発問

トラマルハナバチについて、どんな点がすごいと思
いましたか。

説明文でも、具体的説明のイメー
ジ化が大切

◎「問い―具体的な説明―答え」の関係


◎要点をまとめる

この時、「問い↓例↓答え(考え)―
の順序に従って端的にまとめると要
約となる。

- ・意味段落の要点は、段落相互の関係から言えば答え
(考え)の部分にある。

- ・中心文をもとに足りない点は補充し、できるだけ短く
まとめる。

東田明治



じどう車のなまえ
なまえ
⑥⑦ (が)つ (に)ち
⑥⑦ (が)つ (に)ち
⑥⑦ (が)つ (に)ち
⑥⑦ (が)つ (に)ち

◎どんな **じ**とを **し**て いますか。

◎そのために、どんな **つ**くりになっ ていますか。

情報の取り出し・解釈

ここでは表の順序に従って、情報を取り出すことを課題としている。

仕事とつくりの関係を判断しながら、必要な文を取り出さなくてはいけない。このような場合も解釈とおさえたい。

ワークシートには、熟考・評価にあたる課題がない。

熟考・評価

発表し深める段階の指導（発問）

◇ 「バスのところの書き方と比べてみましょう。」？

このような発問でよいのかどうか分からないが、表現の順序の同一性に気付かせたい。



◇ 「挿絵のトラックはどんな仕事をしてますか。」

◇ 「そのためにどんなつくりになっているでしょう。挿絵のその部分を○で囲みましょう。」

（挿絵と文を結びつけることによってよりイメージを強固なものにすることができると。）

課題二 ○

「トラックのどんなところがすごいと思いましたか。」

学習指導要領の「自分の考えの形成と交流」に対応した課題である。右のような課題によって、自分の考えを確立すると共に、交流を通して友達のことを知ることができる。

また、このような交流を通じて課題一で学習したことがより強固なものになると考えられる。

